

学会発表

<2023>

279. Yamasaki, K., & Uchida, K. (2023). Assessing a school-based universal prevention program's effectiveness and applicability in enhancing autonomous self-esteem among lower-grade elementary students. 7th International Academic Conference on Research in Social Sciences 2023.11.10 London, England

278. 山崎勝之 (2023). 「日本の心理教育プログラム」の現状と課題 —学校での恒常的安定実施の必要性と可能性— (話題提供) 日本心理学会公募シンポジウム 山崎勝之 (企画) 今勢いのある教育から「日本の心理教育プログラム」の未来を観る—やがて、学校に定着できるのか— 日本心理学会第 87 回大会

277. 内山有美・山崎勝之 (2023). 幼児における援助行動測定法の開発 —集団での実施容易性と信頼性・妥当性を付与して— 日本発達心理学会第 34 回大会

276. Uchiyama, Y., & Yamasaki, K. (2023). Development of a measurement scale for the helping behavior of young children: Examination of reliability and validity using a three-choice task. International Convention of Psychological Science 2023.3.11 Brussels, Belgium

<2022>

275. 野口太輔・横嶋敬行・山崎勝之 (2022). 「自律的セルフ・エスティーム」を育成する予防教育プログラム (小学校 1 年生児童対象) の教育効果の検証 日本教育心理学会第 64 回総会

274. 内山有美・山崎勝之 (2022). 幼児版援助行動尺度の開発 —幼児集団への一斉実施による 4 種類の尺度について— 日本教育心理学会第 64 回総会

273. 原田美代子・山崎勝之・内田香奈子 (2022). 自然が限定された保育施設でも実践可能な創造性を育む自然保育プログラムの実践 —プログラム内容や効果評価に関する予備実験— 日本心理学会第 86 回大会

<2021>

272. 山崎勝之 (2021). 健康と適応を守る予防教育の理論と進め方 日本養護教諭教育学会第 29 回大会 徳島文理大学 オンライン開催 2021.11.28 (招待教育講演)

271. 陳 潤澤・山崎勝之 (2021). 中学生における学業ストレスがインターネットゲーム依存に及ぼす影響 —学級雰囲気調整変数として— 日本パーソナリティ心理学会第 30 回大会 オンライン開催 2021.9.25, 26

270. 山崎勝之・青木多寿子 (公募シンポジウム企画) 学校での「心理教育」を促すもの、
阻むもの ― 研究者ができること, やるべきこと ― 日本心理学会第 85 回大会 (明生
大学 オンライン開催 9 月 1 日～9 月 8 日)

269. 滝あい・山崎勝之 (2021). 中学生における睡眠習慣改善プログラムの開発と教育効果
の検証 ―自己コントロールと動機づけ面接法を活用して― 日本学校保健学会第 67 回学
術大会 (愛知学院大学 オンライン開催 11 月 5 日～11 月 7 日)

268. 山崎勝之・青木多寿子 (自主シンポジウム企画) 学校での「心理教育」を促すもの、
阻むもの ― 教員こそができること, やるべきこと 日本教育心理学会第 63 回総会 抄録
集 p.99 (オンライン開催 8 月 21 日～ 8 月 30 日)

267.野口大輔・横嶋敬行・賀屋育子・山崎勝之 (2021). 「自律的セルフ・エスティーム」
を育成する予防教育プログラム (小学校低学年児童版) の開発と教育効果の検証 日本教
育心理学会第 63 回総会 抄録集 p.473 (オンライン開催 8 月 21 日～ 8 月 30 日)

266. 横嶋敬行・野口大輔・賀屋育子・山崎勝之 (2021). 絵文字刺激を使った小学校低学年
児童用の紙筆版潜在連合テストの予備的研究 ―自律的ならびに他律的自尊感情の測定法
として― 日本教育心理学会第 63 回総会 抄録集 p.472 (オンライン開催 8 月 21 日～ 8
月 30 日)

265. Yamasaki, K., Yokoshima, T., & Uchida, K. (2021). Effectiveness of a School-Based
Universal Prevention Program for Enhancing Autonomous Self-Esteem: Utilizing an Implicit
Association Test as an Assessment Tool. 16th International Congress of Behavioural Medicine
being held virtually on 7th - 11th June 2021.

264. Uchida, K., Wei, J., & Yamasaki, K. (2021). Effects of Previous Bullying Experiences on
Current Bullying Recognition and Life Satisfaction in University Students. 16th International
Congress of Behavioural Medicine being held virtually on 7th - 11th June 2021.

263. 安木真帆・山崎勝之 (2021). 中学生における親から友人へのアタッチメント対象の
移行 ―適応指標としての時間的展望への影響― 発達心理学会 2021.3.31 オンライン

<2019>

262.Yamasaki, k., Yokoshima, T., Kaya, I., Kageyama, A, & Uchida, K. (2019). Effectiveness of a
School-Based Universal Prevention Program for Enhancing Autonomous Self-Esteem: Utilizing a
Tablet PC Version of the Implicit Association Test as an Assessment Tool. International Academic
Conference on Social Sciences, Phuket, Thailand, Dec. 27, 2019.

261. Uchida, K., Yokoshima, T., Kaya, I., & Yamasaki, K. (2019). Development of School-Based

Prevention Programs for Health and Adjustment: Considering Easy Implementation and High Attractiveness for Teachers and Children. International Academic Conference on Social Sciences, Phuket, Thailand, Dec. 27, 2019.

260. 山崎勝之 公認心理師としての予防教育と教育臨床 日本教育心理学会第 61 回大会 自主シンポジウム (企画・話題提供)

259. 影山明日香・横嶋敬行・賀屋育子・内田香奈子・山崎勝之 (2019). 本当の自己肯定感を育成する学校予防教育の実践—徳島県藍住町での実践— 日本教育心理学会第 61 回大会 発表論文集, 655

258. 賀屋育子・横嶋敬行・内田香奈子・山崎勝之(2019). 児童の他律的セルフ・エスティームとストレスの関連—全体およびコンピテンス領域別の他律的セルフ・エスティームに着目した横断的検討— 日本教育心理学会第 61 回大会発表論文集, 400.

257. 横嶋敬行・賀屋育子・内田香奈子・山崎勝之(2019). 学校予防教育「TOP SELF」の最新第 3 世代の特徴—教員の実施負担を軽減した新しい予防教育の授業スタイルについて— 日本教育心理学会第 61 回大会発表論文集, 655.

256. 山崎勝之 パーソナリティ研究の混迷 —概念、測定法、研究デザイン、応用的展開の問題にふれながら— 日本心理学会第 83 回大会 (企画・話題提供)

255. 賀屋育子・横嶋敬行・内田香奈子・山崎勝之(2019). 児童の他律的セルフ・エスティームとストレスの関連—全体およびコンピテンス領域別の他律的セルフ・エスティームに着目した短期予測的研究— 日本心理学会第 83 回大会, 2B-082

254. 横嶋敬行・大上遊路・賀屋育子・内田香奈子・山崎勝之(2019). 児童用の自律的ならびに他律的セルフ・エスティーム潜在連合テストの開発—タブレット PC を用いた自律的および他律的 SE の同時測定— 日本心理学会第 83 回大会, 2B-080

<2018 年>

253. Yamasaki, K., Michishita, N., Yokoshima, T., Kaya, I., & Uchida, K. (2018). Effectiveness of a school-based universal prevention program for enhancing autonomous self-esteem at elementary schools: Utilizing a newly developed implicit association test and questionnaire. International Academic Conference on Social Sciences, Sydney, Dec. 19, 2019.

252. 山崎勝之 (2018). 本当の「自己肯定感」とは? —測定から教育まで、抜本的に見直す 日本教育心理学会主催公開シンポジウム 東京大学 2018 年 12 月 2 日

251. 山崎勝之 (2018). 短期予測的研究と介入研究のコラボレーション —予算も労力も

節約し、どこまで因果究明に迫れるか？－（シンポジウム話題提供） 日本心理学会 仙台国際センター 2018年9月25日

250. 賀屋育子・横嶋敬行・内田香奈子・山崎勝之（2018）. 児童用のコンピテンス領域別他律的セルフ・エスティーム尺度の開発－尺度の信頼性と妥当性の検討－ 日本教育心理学会 慶應義塾大学 日吉キャンパス独立館 2018年9月15日

249. 横嶋敬行・大上遊路・山崎勝之（2018）. タブレット版の児童用セルフ・エスティーム（SE）潜在連合テストの開発－適応的なSEを暮らす集団で測定するための予備研究－ 日本教育心理学会 慶應義塾大学 日吉キャンパス独立館 2018年9月15日

<2017年>

248. Yamasaki, K., Yokoshima, T., Kaya, I., & Uchida, K. (2017). Relationships between two types of self-esteem measured utilizing the Implicit Association Test and Rosenberg's scale: Comparisons in the intervention for cultivating autonomous self-esteem. International Academic Conference on Social Sciences, Singapore, Dec. 20, 2017.

247. Uchida, K., Yokoshima, T., Kaya, I., & Yamasaki, K. (2017). Effects of implicit and explicit affect on emotion-focused coping. International Academic Conference on Social Sciences, Singapore, Dec. 20, 2017.

246. 山崎勝之（2017）. 新しい学校予防教育－いじめから学力問題まで 子ども守り育てる総合教育－（シンポジウム話題提供）日仏教育学会 2017年度研究大会、鳴門教育大学 2017年10月21日

245. 山崎 勝之（2017）, 新概念と評価方法に基づく、これからのセルフ・エスティーム（シンポジウム話題提供） 日本教育心理学会 名古屋国際会議場 2017年10月8日

244. 横嶋敬行・賀屋育子・内田香奈子・山崎勝之（2017）. ユニバーサル学校予防教育「自己信頼心（自信）の育成」プログラムの効果－児童用紙筆版セルフ・エスティーム潜在連合テストを用いた自律的セルフ・エスティームへの教育効果の検討－ 日本教育心理学会 名古屋国際会議場 2017年10月7日

243. 賀屋育子・山口悟史・横嶋敬行・内田香奈子・山崎勝之（2017）. 児童用の他律的（随伴性）セルフ・エスティーム尺度の開発－尺度の信頼性と妥当性の検討、そして教育への適用の考察－ 日本教育心理学会 名古屋国際会議場 2017年10月8日

242. 山崎勝之 「セルフ・エスティーム」の概念と測定方法の刷新（シンポジウム話題提供） 日本心理学会 久留米シティプラザ 2017年9月22日

241. 横嶋敬行・内山有美・内田香奈子・山崎勝之 (2017). 児童用の紙筆版セルフ・エスティーム潜在連合テストの開発 —信頼性ならびに教師による児童評定を用いた妥当性の検討— 日本心理学会 久留米シティプラザ 2017年9月21日

240. Uchida, K., Yokoshima, T., Uchiyama, Y., & Yamasaki, K. (2017). The effects of implicit and explicit affect on emotional coping and school adjustment: A short-term prospective study via a universal prevention program. International Convention of Psychological Science, Vienna, Australia, Mar. 25.

239. Yamasaki, K., Umakoshi, A., & Uchida, K. (2017). Effectiveness of a school-based universal program for bullying prevention: Considering the extended effects associated with achievement of the direct purposes of the program. International Convention of Psychological Science, Vienna, Australia, Mar. 24.

<2016年>

238. 横嶋敬行・内山有美・内田香奈子・山崎勝之 (2016). 児童用の Rosenberg 自尊感情尺度の再作成 —項目の修正と教師による児童評定を用いた妥当性の検討— 日本教育心理学会 サンポート高松 2016年10月9日

237. 内田香奈子・横嶋敬行・内山有美・山崎勝之 (2016). 学校主導による学校予防教育(短縮版)の実施と効果 —トップ・セルフ「感情の理解と対処の育成」プログラムの実施を通して— 日本教育心理学会 サンポート高松 2016年10月9日

236. 山崎勝之(企画・司会)(2016). 「セルフ・エスティーム」研究の抜本的再考 — どう測り, どう伸ばすのか? — 日本教育心理学会自主シンポジウム サンポート高松 2016年10月9日

235. 山崎勝之 (2016). いじめ問題に挑む、抜本的予防 —授業「誰もが主役」実現する時空間デザイン 第65回東海心理学会シンポジウム 場所 名古屋市立大学 2016.6.4

234. Uchida, K., Yokoshima, T., & Yamasaki, K. (2016). Effects of implicit affect on emotional coping and school adjustment: A short-term longitudinal study with a school-based universal prevention program for enhancing emotional abilities. European Psychiatric Association, Madrid, Mar. 15, 2016.

233. Yamasaki, K., Murakami, Y., Yokoshima, T., & Uchida, K. (2016). Effectiveness of a school-based universal prevention program for enhancing self-confidence: Considering the extended effects associated with achievement of the direct purposes of the program. European Psychiatric Association, Madrid, Mar. 13, 2016.

<2015 年>

232. 貴志知恵子・山崎勝之 (2015). 大学生の性的リスク対処意識と自尊感情、コミュニケーション・スキルの関連について 日本学校保健学会 岡山コンベンションセンター
2015 年 11 月 28 日

231. 内田香奈子・山崎勝之 (2015). 児童における他者への感情調整方略が学校適応に及ぼす影響 日本心理学会 名古屋国際会議場 2015 年 9 月 23 日

230. 山崎勝之 (2015). いじめ問題への抜本的予防教育 — 誰もが活躍できる授業を実現する時空間デザイン — 心理臨床学会 神戸国際会議場 2015 年 9 月 19 日
(公開シンポ いじめ防止への心理学からのアプローチについて にて)

229. Yamasaki, K., Uchida, K., & Murakami, Y. (2015). Effectiveness of a universal prevention program in enhancing self-confidence for children in schools. International Convention of Psychological Science, Amsterdam, the Netherlands, Mar. 13.

228. Uchida, K., & Yamasaki, K. (2015). Effectiveness of a universal prevention program to enhance understanding and regulating emotions for children in schools. International Convention of Psychological Science, Amsterdam, the Netherlands, Mar. 13.

<2014 年>

227. 内田香奈子・山崎勝之 児童用インプリシット感情測定尺度の開発 — 学校予防教育プログラム効果測定ツールの開発を目指して — 日本教育心理学会 神戸国際会議場
2014 年 11 月 7 日

226. 賀屋育子・山崎勝之 学校予防教育プログラム「自己信頼心(自信)の育成」— 小学校 5 年生での実施と効果 — 日本教育心理学会 神戸国際会議場 2014 年 11 月 7 日

225. 横嶋敬行・内田香奈子・山崎勝之 (2014). 学校予防教育「感情の理解と対処の育成」の教育効果— 中学 1 年生を対象に — 日本教育心理学会 神戸国際会議場 2014 年 11 月 7 日

224. 山崎勝之・内田香奈子 (2014). 予防教育科学を教育実践に活用する 日本生徒指導学会 ワークショップ 2014.10.5 鳴門教育大学

223. 貴志知恵子・山崎勝之 (2014). 大学生における性的リスク対処意識とコミュニケーション・スキル、自尊感情の関連について 日本小児保健協会第 56 回総会・講演会、2014.9.28 徳島大学

222. Yamasaki, K., & Uchida, K. (2014). Effects of positive and negative affect on

depression: Considering the activation dimension of affect. European Psychiatric Association, Munich, Mar. 4, 2014.

221. Uchida, K., & Yamasaki, K. (2014). Effects of suppression of positive and negative emotions on depression. European Psychiatric Association, Munich, Mar. 4, 2014.

220. 横嶋敬行・内田香奈子・山崎勝之 (2014). 学校予防教育プログラム「感情の理解と対処の育成」の教育効果 ―小学校3年生を対象に― 日本発達心理学会 2014年3月22日 京都大学

219. 賀屋育子・内田香奈子・山崎勝之 (2014). 学校予防教育プログラム「感情の理解と対処の育成」の教育効果 ―小学校5年生を対象に― 日本発達心理学会 2014年3月22日 京都大学

218. 安藤有美・山崎勝之 (2014). 学校予防教育プログラム TOP SELF「自己信頼心(自信)の育成」―中学1年生での実施と効果― 日本発達心理学会 2014年3月22日 京都大学

<2013年>

217. 貴志知恵子・工藤友紀・山崎勝之 ピア・サポートを活用した野菜摂取徳島大学取を促す取り組みについて ―小学生を対象とした介入研究―日本学校保健学会 聖心女子大学 2013年11月16日

216. 貴志知恵子・工藤友紀・山崎勝之 ピア・サポートを活用した野菜摂取を促す取り組みについて―小学生を対象とした介入研究― 小児小児保健協会 徳島大学 2013.9.8

215. 山崎勝之・渡辺弥生(企画) (2013). 世界の学校予防教育Ⅱ 日本教育心理学会 法政大学 2013.8.18

214. 内田香奈子・山崎勝之 (2013). 児童でインプリシット感情は測定できるのか 日本教育心理学会 法政大学 2013.8.17日

213. 福田衣利子・内田香奈子・山崎勝之 学校予防教育プログラム TOP SE*F「感情の理解と対処の育成」 ―小学校4年生での実施と効果― 日本発達心理学会 明治学院大学 2013年3月17日

212. Yamasaki, K., Sasaki, M., & Uchida, K. (2013). Attractive, regularly-implementable universal prevention education program for health and adjustment in schools: An innovation from Japan. World conference on educational sciences, Rome,

Italy, Feb. 6, 2013.

<2012年>

211. 山崎勝之 招聘講演「新しい学校予防教育 ―理論・実践・評価―」 日本道徳性発達実践学会 大阪教育大学 2012年11月
210. 内田香奈子・山崎勝之 学校予防教育プログラム「感情の理解と対処の育成」の教育効果 ―小学校3年生を対象に― 日本教育心理学会 琉球大学 2012年11月
209. 安田小響・内田香奈子・山崎勝之 学校予防教育プログラム「感情の理解と対処の育成」の教育効果 ―小学校6年生を対象に― 日本教育心理学会 琉球大学 2012年11月
208. 貴志知恵子・山崎勝之 大学生への喫煙防止教育の効果について(研究Ⅱ) ―スライドとグループ活動を通して― 日本学校保健学会 神戸大学 2012年11月
207. 貴志知恵子・山崎勝之 大学生への喫煙防止教育の効果について ―スライドとグループ活動を通して― 徳島県小児保健協会 徳島大学 2012年9月

<2011年>

206. 貴志知恵子・山崎勝之 大学の喫煙防止教育の効果について ―スライドとグループ活動を通じて― 日本学校保健学会 名古屋大学 2011年11月
205. 山崎勝之 学校予防教育の革新 トップ・セルフの誕生 ―これまでの学校教育への挑戦― ワークショップ「新しい学校予防教育 ―健康・適応から学業まで―」 話題提供 日本心理学会 日本大学 2011年9月
204. 三浦浩美・山崎勝之 児童期の健康・適応に及ぼす正負感情経験と感情表出性の影響 日本心理学会 日本大学 2011年9月
203. 内田香奈子・山崎勝之 特性的コーピングが日常の気分に与える影響 日本心理学会 日本大学 2011年9月
202. Sasaki, M., Yamasaki, K., Uchida, K., & Katsuma, L. The effects of affect balance on short-term life satisfaction and depression: Considering the activation dimension of affect. American Psychological Association, Washington, DC, August 7, 2011
201. Yamasaki, K. Attractive, regularly-implementable universal prevention programs for health and adjustment designed for focused and effective participation. In the symposium “Innovative preventive Education for health and adjustment: Considering the possibility for implementation on a regular basis for all school children. The

European Network for Social and Emotional Competence in Children (ENSEC), Manchester, UK, June 30, 2011.

200. Yamasaki, K., Sasaki, M., Uchida, K., & Katsuma, L. Effects of positive and negative affect and emotional suppression on short-term life satisfaction and depression: Considering activation of affect. European Psychiatric Association, Vienna, Mar. 14, 2011.

<2010年>

199. 貴志知恵子・内田香奈子・山崎勝之 高校生における抑うつ予防のための介入研究
—自記式のハッピー・ノートを活用して— 日本学校保健学会 2010年11月

198. 三浦浩美・勝間理沙・山崎勝之 児童期における感情表出性尺度日本語版の開発 日
本心理学学会 大阪大学 2010年9月

197. 勝間理沙・山崎勝之 児童における関係性攻撃と思いやりとの関連 日本心理学学会
大阪大学 2010年9月

196. 内田香奈子・山崎勝之 特性的な情動焦点型コーピングが日常の気分に与える影響
日本心理学学会 大阪大学 2010年9月

195. 楯本知子・山崎勝之 敵意・意識的防衛性および対人ストレスユーモアコーピングが
抑うつに及ぼす影響に関する短期予測的研究 日本心理学学会 大阪大学 2010年9月

194. 貴志知恵子・内田香奈子・山崎勝之 高校生における抑うつ予防のための介入研究
—正感情と認知的再解釈コーピングを操作因子として— 日本心理学学会 大阪大学
2010年9月

193. Yamasaki, K. Implementation of universal prevention on a regular basis at schools.
American Psychological Association, San Diego, August 14, 2010

192. Yamasaki, K., & Katsuma, L. Relationships between Relational Aggressiveness
and Sympathy in Elementary School Children. American Psychological Association,
San Diego, August 13, 2010

191. Sasaki, M., Sasaki, M., Uchida, K., & Katsuma, L. The effects of affect balance
on short-term life satisfaction and depression. Association for Psychological Science,
Boston, May 29, 2010

190. Yamasaki, K., Sasaki, M., Uchida, K., & Katsuma, L. Effects of affect and

emotional suppression on short-term life satisfaction and depression. Association for Psychological Science, Boston, May 27, 2010

189. 内田香奈子・貴志知恵子・山崎勝之 高校生の感情表出によるコーピングが抑うつに及ぼす影響 日本発達心理学会 神戸国際会議場 2010年3月27日

188. Yamasaki, K., Sasaki, M., Uchida, K., & Katsuma, L. Effects of positive and negative affect and emotional suppression on short-term life satisfaction. European Psychiatric Association, Munich, Mar. 1, 2010

187. Sasaki, M., Yamasaki, K., Uchida, K., & Katsuma, L. Relationship between affect and short-term life satisfaction: Considering activation and balance of affect. European Psychiatric Association, Munich, Mar. 1, 2010

<2009年>

187. 山崎勝之 「日本の学校予防教育の展望 –アメリカの暴力予防教育や発達健康心理学研究のプログラム変遷から考える–」 日本心理学会（ワークショップ「発達領域における攻撃研究の新展開（3）」 話題提供） 立命館大学 2009年8月

186. 貴志知恵子・内田香奈子・山崎勝之 正感情とコーピングの関連について –高校生を対象とした予測的研究– 日本心理学会 立命館大学 2009年8月

185. 内田香奈子・山崎勝之 日本語版 Emotional Approach Coping Scales（特性版）の信頼性と妥当性の検討 日本心理学会 立命館大学 2009年8月

184. 勝間理沙・山崎勝之 児童における3タイプの攻撃性と共感関連反応との関係 日本心理学会 立命館大学 2009年8月

183. 楯本知子・山崎勝之 対人ストレスユーモアコーピングが敵意、意識的防衛性と抑うつとの関係に及ぼす影響 日本心理学会 立命館大学 2009年8月

* Katsuma, L., & Yamasaki, K. Effects of relational aggression on empathy-related responses to victims of relational bullying in children. Association for Psychological Science, San Francisco, May 22, 2009 (Cancelled for the swine flu pandemic)

* Yamasaki, K., & Katsuma, L. Relationships between relational aggression and sympathy in elementary school children. Association for Psychological Science, San Francisco, May 24, 2009 (Cancelled for the swine flu pandemic)

<2008年>

182. 貴志知恵子・内田香奈子・山崎勝之 正感情と心身の健康の関連 ―高校生を対象とした横断的研究― 日本学校保健学会 愛知学院大学 2008年11月

181. 山崎勝之 正感情とコーピング機能を操作因子とした健康・適応への介入研究 日本心理学会 (ワークショップ「健康・適応領域における感情研究の新たな展開 (2)」 話題提供) 北海道大学 2008年9月

180. 内田香奈子・山崎勝之 日本語版 Emotional Approach Coping Scales (特性版) の作成 日本心理学会 北海道大学 2008年9月

179. 楳本知子・山崎勝之 対人ストレスユーモアコーピング尺度 (HCISS) の作成と信頼性、妥当性の検討 日本心理学会 北海道大学 2008年9月

178. 勝間理沙・山崎勝之 関係性攻撃傾向が関係性攻撃的いじめ場面における共感関連反応へ及ぼす影響 日本心理学会 北海道大学 2008年9月

177. Yamasaki, K., Uchida, K., & Katsuma, L. Effects of the coping by “finding positive meaning” on positive affect and health. Association for Psychological Science, Chicago, May 23, 2008

176. Katsuma, L., & Yamasaki, K. The effect of relational aggression on empathy-related responses in children. Association for Psychological Science, Chicago, May 23, 2008

175. 勝間理沙・山崎勝之 児童における関係性攻撃傾向の高さが共感関連反応に及ぼす影響 日本発達心理学会 大阪国際会議場 2008年3月

<2007年>

174. 内田香奈子・山崎勝之 感情表出コーピングが抑うつに及ぼす影響の予測的研究 ―媒介要因としてのソーシャル・サポートの効果― 日本健康心理学会 文教大学 2007年9月

173. 貴志知恵子・山崎勝之 高校での保健学習「応急手当」の効果に関する研究 ―学習効果と自尊感情・向社会的行動に及ぼす影響について― 日本学校保健学会 和洋女子大学 2007年9月

172. 玉木健弘・山崎勝之 小学生における攻撃特性の違いがストレス反応へおよぼす影響の検討 日本心理学会 東洋大学 2007年9月

171. 勝間理沙・山崎勝之 児童の仲間ならびに自己評定による関係性攻撃が共感性に及ぼす影響 日本心理学会 東洋大学 2007年9月

170. 内田香奈子・山崎勝之 感情表出コーピングが抑うつに及ぼす影響におけるソーシャル・サポートの媒介効果 日本心理学会 東洋大学 2007年9月

169. Yamasaki, K., Uchida, K., & Katsuma, R. Effects of positive affect on coping and health. American Psychological Association, San Francisco, Aug. 18, 2007

168. Yamasaki, K., & Nishida, N. The relationship between three types of aggression and peer relations in elementary school children. Society for Research in Child Development, Boston, Mar. 31, 2007

<2006年>

167. 内田香奈子・山崎勝之 感情表出によるストレス・コーピングが抑うつに及ぼす影響の縦断的研究 日本心理学会 福岡国際会議場 2006年11月

166. 玉木健弘・山崎勝之・松永一郎 小学生における攻撃特性の違いが社会的情報処理へおよぼす影響の検討 日本心理学会 福岡国際会議場 2006年11月

165. 勝間理沙・山崎勝之 児童の攻撃性から正負感情への因果関係に媒介する共感の影響 日本心理学会 福岡国際会議場 2006年11月

164. 勝間理沙・山崎勝之 児童の関係性攻撃における自己評定と他者評定 日本パーソナリティ心理学会 東京富士大学 2006年10月

163. Yamasaki, K., Uchida, K., & Katsuma, R. Effects of “Finding Positive Meaning” on Positive Affect. American Psychological Association, New Orleans Aug. 18, 2006

162. Yamasaki, K., Katsuma, R., & Sakai, A. Development of a Japanese Version of the Positive and Negative Affect Schedule for Children (PANAS-C) Society for Research on Adolescence, San Francisco, Mar. 25, 2006

<2005年>

161. 勝間理沙・山崎勝之 児童における3タイプの攻撃性が共感に及ぼす影響 日本心理学会 慶応大学 2005年9月

160. 内田香奈子・山崎勝之 感情コーピング尺度における標準化の試み — 妥当性の検証 — 日本心理学会 慶応大学 2005年9月

159. 玉木健弘・山崎勝之・松永一郎 中学生の攻撃性における教師評価と自己評価のズレが社会的情報処理過程ならびにストレス反応に及ぼす影響の検討 日本心理学会 慶応大学 2005年9月

158. 内田香奈子・山崎勝之 感情コーピング尺度（状況版）の作成と信頼性、妥当性の検討 日本健康心理学会 神戸女学院 2005年9月

157. 勝間理沙・山崎勝之 児童における3タイプの攻撃性が正負感情に及ぼす影響 日本健康心理学会 神戸女学院 2005年9月

156. Yamasaki, K., Sakai, A. & Uchida, K. Relationship between Positive Affect and Both Problem- and Emotion-focused Coping American Psychological Association, Washington, DC, Aug. 19, 2005

155. Yamasaki, K., Sakai, A., & Uchida, K. A Longitudinal Study of the Relationship between Affect and Health and Lifestyle. American Psychological Society, Los Angeles, May 28, 2005.

154. Yamasaki, K. & Uchida, K. The relationship between positive affect and

emotion-focused coping. Society for Social and Personality Psychology, New Orleans Jan. 20, 2005

<2004年>

153. 坂井明子, 山崎勝之 女子児童の攻撃性と仲間関係 日本教育心理学会 富山大学
2004年10月
152. 玉木健弘, 山崎勝之, 松永一郎 教師評価による小学生の攻撃性が社会的情報処理過程
ならびにストレス反応に及ぼす影響の検討 日本教育心理学会 富山大学 2004年10月
151. 玉木健弘, 山崎勝之, 松永一郎 中学生の攻撃性における教師評価と自己評価のズレ
がストレス反応に及ぼす影響 日本心理学会 関西大学 2004年9月
150. 内田香奈子, 山崎勝之 感情表出によるストレス・コーピングが抑うつに及ぼす影響
日本心理学会 関西大学 2004年9月
149. 松田茶茶, 山崎勝之 Health Locus of Control、健康行動、健康状態、および死の不安
の関連性—各変数間の相関関係より— 日本健康心理学会 文化女子大学 2004年9月
148. 松田茶茶, 山崎勝之 Health Locus of Control から健康行動への因果関係に及ぼす
死の不安の影響 日本心理学会 関西大学 2004年9月
147. 坂井明子, 山崎勝之 小学生の攻撃性と親子関係 日本心理学会 関西大学 2004
年9月
146. 山崎勝之 パーソナリティとキャラクターの教育 日本教育実践学会 神戸親和女子
大学 2004年9月 (講演)
145. Yamasaki, K., Kurakake, M. Effectiveness of a universal intervention program
to prevent depression in elementary school children. American Psychological
Society, Chicago, 2004年5月
144. Yamasaki, K., Sakai, A. Reconsideration of Aggression Types and Development of
a Questionnaire to Measure Three Types of Aggression in School Children. Society for
Research on Adolescence, Baltimore, 2004年3月

<2003年>

143. 内田香奈子, 山崎勝之 大学生用感情コーピング尺度(ECQ) の作成と信頼性、妥当
性の検討 日本健康心理学会 関西福祉科学大学 2003年11月
142. 松田茶茶, 山崎勝之 大学生用「死の不安尺度」の開発と信頼性の検討 日本健康心
理学会 関西福祉科学大学 2003年11月
141. 玉木健弘, 山崎勝之, 松永一郎 教師評価による中学生の攻撃性が社会的情報処理
過程ならびにストレス反応に及ぼす影響の検討 日本犯罪心理学会 西九州大学
2003年9月
140. 佐々木 恵, 山崎勝之 大学新入生におけるストレス・コーピングと適応の因果関係
日本心理学 東京大学 2003年9月
139. 玉木健弘, 山崎勝之, 松永一郎 中学生における攻撃性が社会的情報処理過程ならび
にストレス反応に及ぼす影響の検討 日本心理学 東京大学 2003年9月

138. 内田香奈子, 山崎勝之 大学生用感情コーピング尺度(ECQ)の作成—因子的妥当性と信頼性に関する予備的研究— 日本心理学 東京大学 2003年9月
137. 松田茶茶, 山崎勝之 大学生用死の不安尺度の開発—因子的妥当性と信頼性に関する予備的研究— 日本心理学 東京大学 2003年9月
136. 玉木健弘, 山崎勝之, 松永一郎 小学生における攻撃性が社会的情報処理過程ならびにストレス反応に及ぼす影響の検討 日本教育心理学会 大阪国際会議場 2003年8月

<2002年>

135. 玉木健弘, 山崎勝之, 松永一郎 中学生用攻撃性質問紙の作成—自記式版の信頼性, 妥当性の検討— 日本心理学会 広島大学 2002年9月
134. 楮本知子, 山崎勝之 敵意が血圧に及ぼす影響における意識的防衛性の役割 日本心理学会 広島大学 2002年9月
133. 佐々木恵, 山崎勝之 大学生の健康状態に及ぼす特性的コーピングと状況的コーピングの影響 日本心理学会 広島大学 2002年9月
132. 坂井明子, 山崎勝之 小学生用P-R攻撃性質問紙(PRAQ-C)の作成—道具的ならびに反応的攻撃性質問紙の因子的妥当性と内的整合性の検討— 日本心理学会 広島大学 2002年9月
131. 松村亨, 山崎勝之 自律的でセルフ・エスティームに満ちた性格形成を目指す教育プログラムの効果の検討 日本教育心理学会 熊本大学 2002年10月
130. 玉木健弘, 山崎勝之, 松永一郎 中学生用攻撃性質問紙の作成—教師評定版の信頼性, 妥当性の検討— 日本教育心理学会 熊本大学 2002年10月
129. 坂井明子, 山崎勝之 小学生用P-R攻撃性質問紙(PRAQ-C)の作成—道具的ならびに反応的攻撃性質問紙の妥当性と安定性の検討 日本教育心理学会 熊本大学 2002年10月
128. 佐々木恵, 山崎勝之 敵意と健康状態の因果関係における状況的コーピングの媒介機能 日本健康心理学会 早稲田大学 2002年10月
127. 楮本知子, 山崎勝之 学校教師の抑うつにおける敵意と意識的防衛性の役割 日本健康心理学会 早稲田大学 2002年10月
126. 山崎勝之 健康影響因としての性格と行動(2) 日本心理学会 広島大学 2002年11月 (ワークショップ企画と話題提供)
125. 山崎勝之 青少年の暴力を予防する—学校における総合的予防教育プログラムの展開— 日本心理学会 広島大学 2002年9月 (シンポジウム話題提供)
124. 山崎勝之 学校における生活習慣病予防プログラムの展開 日本心理学会 広島大学 2002年9月 (シンポジウム話題提供)
123. 山崎勝之, 松村亨 自律性を高める意義とその教育 日本教育心理学会 熊本大学 2002年10月 (シンポジウム話題提供)
122. Sasaki, M., Yamasaki, K. The impact of dispositional and situational coping on health status in university students. International Congress of Behavioural Medicine Helsinki, Finland, 2002年8月
121. Yamasaki, K., Fujii, S. Effectiveness of a health promotion education

intervention program to prevent lifestyle diseases in elementary school children.
International Congress of Behavioural Medicine Helsinki, Finland, 2002年8月

<2001年>

120. 曾我祥子, 大竹恵子, 山崎勝之, 島井哲志 児童の生活習慣と攻撃性 日本教育心理学会 名古屋国際会議場 2001年9月
119. 仙谷真弓, 山崎勝之 児童の外的統制性と抑うつに介在する攻撃性の影響 – 共分散構造分析による因果モデルの検討 – 日本心理学会 つくば国際会議場 2001年11月
118. 山下文代, 山崎勝之 児童用セフル・エスティーム尺度の作成 – 信頼性と妥当性の検討 – 日本心理学会 つくば国際会議場 2001年11月
117. 楮本知子, 山崎勝之 意識的防衛性質問紙 (CDQ) の作成と妥当性, 信頼性の検討 日本心理学会 つくば国際会議場 2001年11月
116. 佐々木恵, 山崎勝之 大学における攻撃性と健康状態の因果関係 日本心理学会 つくば国際会議場 2001年11月
115. 佐々木恵, 山崎勝之 敵意性と健康状態の因果関係ならびにその媒介過程としてのストレス・コーピングの検討 日本健康心理学会 仙台市民会館 2001年11月
114. 山崎勝之 学校において攻撃性を適正化する予防的総合教育プログラムの展開 日本心理学会 つくば国際会議場 2001年11月 (シンポジウム話題提供)
113. 山崎勝之 「生きる力」と「心」の教育における新たな視点とその方法 日本発達心理学会 鳴門教育大学 2001年3月 (公開シンポジウムの企画と司会)
112. 山崎勝之 健康影響因としての性格と行動 (2) 日本心理学会 つくば国際会議場 2001年11月 (ワークショップ企画と司会)

<2000年>

111. Yamasaki, K., Kasai, Y. An educational program to reduce aggressiveness of children in elementary-school classes. International Congress of Psychology Stockholm, Sweden, 2000年7月
110. Tamaki, T., Yamasaki, K. The effects of expressive and inexpressive aggression on some social information-processing phases in children. International Congress of Psychology Stockholm, Sweden, 2000年7月
109. Yamashita, F., Yamasaki, K. The effects of social support on the relationship of Type A personality to personal stress in children. International Congress of Psychology Stockholm, Sweden, 2000年7月
108. 山崎勝之 健康影響因としての性格と行動 日本心理学会 京都大学 2000年11月 (ワークショップ企画と話題提供)
107. 今川恵美子, 山崎勝之 小学校における攻撃性適正化教育プログラム – 短縮版の実践とその教育効果の検討 – 日本健康心理学会 早稲田大学 2000年8月
106. 今川恵美子, 山崎勝之 性格と行動の学校教育から子どもの健康と適応を守る – フィークス・プログラムの展開 – 日本応用心理学会 親和女子大学 2000年9月 (シンポジウムでの話題提供)

105. 齊藤剛, 山崎勝之 中学校における対人ストレスの低減ーフィークス・プログラムの実践ー 日本教育実践学会 鳴門教育大学 2000年11月
104. 坂井明子, 山崎勝之, 曾我祥子, 大芦治, 島井哲志, 大竹恵 小学生用攻撃性質問紙 (HAQ-C) の構成概念的妥当性と安定性 日本心理学会 京都大学 2000年11月
103. 玉木健弘, 山崎勝之 社会的情報処理に及ぼす表出性ならびに不表出性攻撃性格の影響 日本心理学会 京都大学 2000年11月
102. 佐々木恵, 山崎勝之 成人用コーピング尺度 (GCQ) の作成及び信頼性・妥当性の検討 日本心理学会 京都大学 2000年11月
101. 仙谷真弓, 山崎勝之 児童用外的統制質問紙 (GEQC) の作成ー信頼性と妥当性の検討ー 日本心理学会 京都大学 2000年11月
100. 嶋田洋徳, 大竹恵子, 島井哲志, 山崎勝之, 曾我祥子, 大芦治, 坂井明子, 神村栄一 中学生用攻撃性質問紙 (HAQ-S) の信頼性と妥当性の検討 日本心理学会 京都大学 2000年11月

<1999年>

99. 山崎勝之 攻撃性が健康に及ぼす影響と学校におけるその改善教育 (シンポジウムの話題提供) 日本発達心理学会 大阪学院大学 1999年3月
98. 今川恵美子, 山崎勝之 小学校における攻撃性低減への総合的教育プログラムー12週プログラムへの実践と教育効果の検討ー 日本教育心理学会甲南女子大学 1999年8月 (シンポジウム)
97. 大竹恵子, 島井哲志, 嶋田洋徳, 山崎勝之, 狩野裕 攻撃性と社会的スキルの関係ー中学生用攻撃性質問紙 (HAQS) を用いてー 日本教育心理学会 甲南女子大学 1999年8月
96. 山崎勝之 タイプA行動に関するわが国独自の研究知見ー発達ならびに健康心理学領域を中心にー 循環器心身医学研究会パシフィコ横浜会議センター 1999年9月 (シンポジウム話題提供)
95. 桃生寛和, 早野順一郎, 木村一博, 保坂隆, 柴田仁太郎, 福西勇夫, 山崎勝之, 前田聰 JCBS Scale Cによる日本人の Coronary-prone Behavior の評価ーEastern Collaborative Group Study 循環器心身医学研究会パシフィコ横浜会議センター 1999年9月9日 (シンポジウム話題提供)
94. 大芦治, 曾我祥子, 山崎勝之, 島井哲志 大芦治, 曾我祥子, 山崎勝之, 島井哲志 小学生用攻撃性質問紙 (HAQC) に関する研究 (1)ー攻撃性と生活習慣ー 日本心理学会 中京大学 1999年9月
93. 曾我祥子, 嶋田洋徳, 山崎勝之, 宇津木成介 小学生用攻撃性質問紙 (HAQC) に関する研究 (2)ー攻撃性とストレス反応ー 日本心理学会 中京大学 1999年9月
92. 舟橋一恵, 森山隆行, 山崎勝之 対人行動場面における怒りと循環器系生理反応の変容ー非協力事態における実験的研究ー 日本心理学会 中京大学 1999年9月
91. 玉木健弘, 山崎勝之 記式児童用攻撃性質問紙 (GAQC) の作成ー表出性ならびに不表出性攻撃の測定ー 日本心理学会 中京大学 1999年9月
90. 堤広幸, 山崎勝之 小学校クラス集団における対人ストレス低減を目的とした心の健康教育プログラム 日本健康心理学会 岡山大学 1999年10月

89. 山下文代, 山崎勝之 タイプA性格と対人ストレスに介在するソーシャル・サポートの影響 — 仲間評定による児童の経時的な変化の測定 — 日本健康心理学会 岡山大学 1999年10月
88. 今川恵美子, 笠井祐子, 山崎勝之 小学校における攻撃性適正化教育プログラムの評価法の検討 — 児童用対人領域セルフ・エスティーム尺度及び児童用意図帰属尺度の標準化 — 日本健康心理学会 岡山大学 1999年10月
87. 山崎勝之 性格と行動の教育における行動科学の原理 日本学校保健学会 名古屋大学 1999年11月 (シンポジウム話題提供)

<1998年>

86. 山下文代, 山崎勝之 タイプA児童のストレス反応に及ぼすソーシャルサポートの効果 (2) 日本発達心理学会 日本女子大学 1998年3月
85. 山崎勝之 学校クラス集団における心の健康教育 — 攻撃性低減への総合的プログラム — 日本心理学会 東京学芸大学 1998年10月 (シンポジウム話題提供)
84. 坂井明子, 曾我祥子, 大芦治, 山崎勝之 小学生用攻撃性質問紙 (HAQC) の作成 (2) — 23項目版の調査の実施と検討 — 日本心理学会東京学芸大学 1998年10月
83. 山崎勝之, 坂井明子, 宇都木成介, 曾我祥子 小学生用攻撃性質問紙 (HAQC) の作成 (3) — 表出性攻撃と敵意の2尺度構成への分析 — 日本心理学会東京学芸大学 1998年10月
82. 清水恭子, 山崎勝之 犯罪・非行に対する許容度と攻撃性格の関係 日本心理学会 東京学芸大学 1998年10月
81. 舟橋一恵, 森山隆行, 山崎勝之 非協力的事態がもたらす怒りと循環器生理反応への影響 日本心理学会 東京学芸大学 1998年10月
80. 今川恵美子, 山崎勝之 自律性からとらえた児童の性格タイプとストレス反応との関係 — 対人関係場面の成功・失敗事態での原因帰属の影響 — 日本心理学会東京学芸大学 1998年10月
79. 森山隆行, 山崎勝之 怒り反応に及ぼす攻撃型テレビゲームの影響 (2) — 言葉による挑発刺激の効果を中心にして — 日本心理学会 東京学芸大学 1998年10月
78. 堤広幸, 山崎勝之 小学校クラス集団における対人ストレスの低減を目的とした教育プログラム — プログラムの作成とその効果の評価 — 日本学校保健学会 筑波大学 1998年11月
77. 笠井祐子, 山崎勝之 攻撃性低減のための総合的教育プログラム — 実施細案の作成と教育効果の検討 — 日本健康心理学会 文化女子大学 1998年11月
76. 山下文代, 山崎勝之 日本版児童用タイプA検査 (自己評定版) の作成 日本健康心理学会 文化女子大学 1998年11月
75. 西信雄, 島井哲志, 曾我祥子, 山崎勝之, 多田羅浩三 攻撃性と生活習慣の関連 日本行動医学会 神戸市産業振興センター 1998年12月

<1997年>

74. 皆川直凡, 笥美香, 国家順子, 白木ひとみ, 高橋裕子, 滝沢美彩, 山崎勝之 思いやり行動の分類と評価 (3) — 保育学生と一般学生の比較 — 日本保育学会 第50回大会 鳴

門教育大学 1997年5月

73. 井浦美智代、山崎勝之 うつ病親和性性格が及ぼすストレス反応への影響 —平常時とストレス時の比較— 日本心理学会 第61回大会 関西学院大学 1997年9月
72. 今川恵美子、山崎勝之 自律性からとらえた性格タイプがストレス反応に及ぼす影響 日本心理学会 第61回大会 関西学院大学 1997年9月
71. 森山隆行、山崎勝之 怒り反応に及ぼす攻撃型テレビゲームの影響 日本心理学会 第61回大会 関西学院大学 1997年9月
70. 安藤明人、曾我祥子、小西賢三、山崎勝之 日本版 Buss-Perry 攻撃性質問紙 (BAQ) の作成 (1) —大学生のデータによる因子的妥当性・信頼性の検討— 日本心理学会 第61回大会 関西学院大学 1997年9月
69. 宇津木成介、嶋田洋徳、坂井明子、山崎勝之 日本版 Buss-Perry 攻撃性質問紙 (BAQ) の作成 (4) —社会人を対象とした調査結果による因子得点、性差、因子間の検討、および大学生との比較— 日本心理学会 第61回大会 関西学院大学 1997年9月
68. 山下文代、山崎勝之 タイプA児童のストレス反応に及ぼすソーシャルサポートの効果 (1) 日本教育心理学会 第39回大会 広島大学 1997年9月
67. 山崎勝之、宮田洋敵意と抑うつの関係に及ぼすソーシャル・サポートの影響 —サポートの多面性をとらえて— 日本心理学会 第61回大会 関西学院大学 1997年9月
66. 山崎勝之 怒りとストレス反応の関係に及ぼすソーシャル・サポートの影響 —児童期におけるサポートの多面性をとらえて— 日本教育心理学会 第39回大会 広島大学 1997年9月
65. 山崎勝之 性格は健康を阻害する独立因子となり得るか? 日本教育心理学会 第39回大会 広島大学 1997年9月 (小講演)

<1996年>

64. 山崎勝之 幼児の日常ストレスに及ぼすタイプA性格の影響 日本発達心理学会 第7回大会 埼玉大学 1996年3月
63. 皆川直凡、国家順子、佐々木裕子、滝沢美彩、平井美香、藤田ひとみ、山崎勝之 思いやり行動の分類と評価 (1) —乳幼児を対象として— 日本保育学会 第49回大会 聖徳大学 1996年5月
62. 佐々木裕子、国家順子、滝沢美彩、平井美香、藤田ひとみ、皆川直凡、山崎勝之 思いやり行動の分類と評価 (2) —大人を対象として— 日本保育学会 第49回大会 聖徳大学 1996年5月
61. 皆川直凡、笈美香、国家順子、白木ひとみ、高橋裕子、滝沢美彩、山崎勝之 思いやり行動の分類と評価 (3) —保育学生と一般学生の比較— 日本保育学会 第49回大会 聖徳大学 1996年5月
60. 藤田ひとみ、滝沢美彩、平井美香、山崎勝之 乳幼児の保育園における日常ストレス 日本保育学会 第49回大会 聖徳大学 1996年5月
59. 滝沢美彩、平井美香、藤田ひとみ、山崎勝之 保育園児の対人ストレス (1) —乳児を対象にして— 日本保育学会 第49回大会 聖徳大学 1996年5月
58. 平井美香、藤田ひとみ、滝沢美彩、山崎勝之 保育園児の対人ストレス (2) —幼児を

対象にしてー日本保育学会 第49回大会 聖徳大学 1996年5月

57. 堀礼子、早野順一郎、木村一博、保坂隆、柴田仁太郎、福西勇夫、山崎勝之、前田俊彦、沼田裕一、殿岡幸子、桃生寛和 Japanese Coronary-Prone Behavior Scale (JCBS)による日本的冠動脈疾患親和型行動パターンの検討ーJCBS Scale Aの妥当性ー 日本心身医学会 第37回大会 京都府立医科大学 1996年6月

56. Yamasaki, K. Social support as a buffer of depression in Type A individuals. International Congress of Psychology XXVI Montreal, Canada 1996年8月

55. 山崎勝之 日本版児童用タイプA検査 (MYTH) の作成 日本教育心理学会 第38回大会 筑波大学 1996年11月

54. 山崎勝之、宮田洋 敵意ならびにタイプA性格が抑うつに及ぼす影響ーうつ親和性性格を媒介要因としてー 日本心理学会 第60回大会 立教大学 1996年9月

<1995年>

53. 皆川直凡、平井美香、国家順子、権藤真織、滝沢美彩、山崎勝之 乳幼児の思いやり行動と言語発達との関係の分析 日本保育学会 第48回大会 郡山女子大学 1995年5月

52. 平井美香、滝沢美彩、藤田ひとみ、元恒真織、佐々木裕子、皆川直凡、柏原栄子、山崎勝之、国家順子 保育者の目に映る園児の「援助行動」 日本保育学会 第48回大会 郡山女子大学 1995年5月

51. 国家順子、佐々木裕子、藤田ひとみ、平井美香、滝沢美彩、元恒真織、柏原栄子、山崎勝之 保育学生の目に映る思いやり行動 その2 日本保育学会 第48回大会 郡山女子大学 1995年5月

50. 早野順一郎、木村一博、保坂隆、柴田仁太郎、福西勇夫、山崎勝之、堀礼子、前田俊彦、沼田裕一、殿岡幸子、桃生寛和 Japanese Coronary-Prone Behavior Scale (JCBS)による日本的冠動脈疾患親和型行動パターンの検討 日本行動医学会 第2回大会早稲田大学 1995年6月

49. 島井哲志、山崎勝之 中学生の食行動とタイプA行動パターン 日本心理学会 第59回大会 琉球大学 1995年10月

48. 山崎勝之 タイプA特性と生活習慣 日本行動医学会 第2回大会 早稲田大学 1995年6月 (シンポジウム)

47. 山崎勝之 幼児のタイプA性格と競争性ー物的報酬事態との比較ー 日本教育心理学会 第37回大会 茨城大学 1995年9月

46. 山崎勝之、宮田洋 タイプA性格と生活習慣ー社会人における調査ー 日本心理学会 第59回大会 琉球大学 1995年10月

<1994年>

45. 山崎勝之 タイプA性格の形成と予防ー発達過程の観点からー 日本カウンセリング学会 第27回大会 沖縄国際大学 1994年5月 (シンポジウム)

44. 山崎勝之 幼児のタイプA性格と競争性ー対人競争場面における課題遂行ー 日本教育心理学会 第36回大会 京都大学 1994年9月

43. 堀礼子、早野順一郎、木村一博、保坂隆、柴田仁太郎、福西勇夫、山崎勝之、桃生寛和
日本人の Coronary-Prone Behavior Scale の開発 (2) - JCBS と冠動脈危険因子との関係
- 日本心身医学会中部地方会 第 33 回大会 藤枝市立志太総合病院 1994 年 5 月
42. 国家順子、佐々木裕子、藤田ひとみ、平井美香、滝沢美彩、元恒真織、柏原栄子、山崎
勝之 保育学生の目に映る思いやり行動 日本保育学会 第 47 回大会 昭和女子大学
1994 年 5 月
41. 福西勇夫、山崎勝之、桃生寛和、早野順一郎、木村一博、松本めぐみ、保坂隆、柴田仁
太郎 Japanese Coronary-Prone Behavior Scale (JCBS) の開発 (4) - 冠動脈疾患別の検
討と今後の課題-日本心身医学会 第 35 回大会 国立精神・神経センター 1994 年 6 月
40. 河野浩、山崎勝之、宮田洋 Type A 特性と生活習慣の関係 - 睡眠習慣を中心にして
- 日本心理学会 第 58 回大会 日本大学 1994 年 10 月
39. 山崎勝之、河野浩、宮田洋 タイプ A 性格と生活習慣 - 平常日と休假日の比較- 日
本心理学会 第 58 回大会 日本大学 1994 年 10 月

<1993 年>

38. 山崎勝之 タイプ A 特性と生活習慣の関係 日本心理学会 第 57 回大会 早稲田大学
1993 年 9 月

<1992 年>

37. 山崎勝之 幼児のタイプ A 特性と競争性 日本発達心理学会 第 3 回大会 兵庫教育
大学 1992 年 3 月
36. 山崎勝之 幼児期におけるタイプ A の安定性 - 発達過程の観点から- 日本心理学
会 第 56 回大会 同志社大学 1992 年 9 月
35. 時田学、山崎勝之、山田富美雄、増田公男、鈴木隆男、島井哲志 子どものビデオゲー
ム遊びに関する調査 (3) - タイプ A 行動の側面から- 日本発達心理学会 第 3 回大会
兵庫教育大学 1992 年 3 月
34. 増田公男、山崎勝之、時田学、島井哲志、鈴木隆男 児童期のビデオゲーム遊びと肥満 (2)
- 社会性、自制心とタイプ A 行動- 日本教育心理学会 第 34 回大会 信州大学 1992 年 10
月

<1991 年>

33. 山崎勝之 幼児の Type A 特性ときょうだい構成 日本発達心理学会 第 2 回大会 お
茶の水女子大学 1991 年 3 月
32. 山崎勝之 Type A 特性における親子 (幼児) の類似性 日本教育心理学会 第 33 回大
会 上越教育大学 1991 年 9 月
31. 山崎勝之、田中雄治、宮田洋 日本版成人用 Type A 検査の作成 (2) - 加算作業の反
応差からみた妥当性- 日本心理学会 第 55 回大会 東北大学 1991 年 10 月
30. 山崎勝之、山田富美雄、増田公男 子どもとコンピュータ・ビデオゲーム (3) - ビデオゲー
ムの使用と子どものタイプ A 行動パターン- 関西心理学会 第 103 回大会 神戸大学
1991 年 11 月

29. 山崎勝之、山田富美雄、鈴木隆男、松田俊 児童のタイプA行動パターンとビデオゲーム 日本心身医学会 第15回大会(中国・四国地方大会) 国際会議場 1991年11月

<1990年>

28. 山崎勝之、菊野春雄 幼児の Type A 特性と分類基準 -日本語版 MYTH 検査を用いて- 日本発達心理学会 第1回大会 白百合女子大学 1990年3月
27. 山崎勝之、田中雄治、宮田洋 日本版成人用 Type A 検査の作成 -項目の決定と信頼性の検討- 日本心理学会 東京都立大学 1990年6月
26. 三宅進、山崎勝之、平伸二 臨床診断と lie detection の展望 日本生理心理学会 第8回大会 愛知学院大学 1990年9月(シンポジウム)
25. 山崎勝之 幼児の Type A 特性と要求水準 日本教育心理学会 第32回大会 大阪大学 1990年10月

<1989年>

24. 山崎勝之 Type A 行動の形成と親の養育態度 日本心理学会 第53回大会 筑波大学 1989年11月

<1988年>

23. 山崎勝之 精神テンポの安定性と個人差 日本心理学会 第52回大会 広島大学 1988年10月
22. 菊野春雄、山崎勝之 日本語版 MYTH 検査の作成(1) -項目作成とデータ特性について- 日本教育心理学会 第30回大会 鳴門教育大学 1988年11月
21. 山崎勝之、菊野春雄 日本語版 MYTH 検査の作成(2) -信頼性と因子的妥当性について- 日本教育心理学会 第30回大会 鳴門教育大学 1988年11月

<1986年>

20. 山崎勝之 慣用的時間システムに関する発達的研究 日本教育心理学会 第28回大会 九州大学 1986年10月
19. 山崎勝之 時間評価におよぼす時間的展望の影響 日本心理学会 第50回大会 名古屋大学 1986年10月

<1985年>

18. 山崎勝之、宮田洋 時間評価におよぼす内的テンポの効果 日本心理学会 第49回大会 日本大学 1985年7月

<1984年>

17. 山崎勝之 時間評価の発達的研究 -幼児と成人における時間評価の比較- 日本教育心理学会 第26回大会 京都大学 1984年9月
16. 山崎勝之、宮田洋 驚愕反射におよぼす不安の効果 -生理反応測定時の諸問題- 日本心理学会 第48回大会 大阪大学 1984年10月

15. 山崎勝之、宮田洋 時間評価の発達の研究 —学習事態での中学生と成人の比較— 関西心理学会 第96回大会 大阪教育大学 1984年11月

<1983年>

14. 山崎勝之、宮田洋 先行付加刺激による驚愕反射の変容(2) —不安水準及び不確定度の効果— 日本心理学会 第47回大会 早稲田大学 1983年9月

<1982年>

13. 山崎勝之、宮田洋 先行付加刺激による驚愕反射の変容 —予告信号を用いて— 日本心理学会 第46回大会 京都大学 1982年7月

12. 山崎勝之、宮田洋 驚愕性瞬目反射の慣れ及び先行刺激効果 —眼輪筋EMG積分処理の試み— 日本脳波・筋電図学会第12回大会 鳥取大学 1982年10月

11. 山崎勝之 驚愕反応におよぼす不安の効果 日本教育心理学会 第24回大会 筑波大学 1982年11月

10. 山崎勝之、宮田洋 驚愕反射の基礎(IV) —刺激持続時間の効果— 関西心理学会 第94回大会 滋賀大学 1982年12月

<1981年>

9. 山崎勝之、中山誠、宮田洋 驚愕反射の基礎(II) —多変量による分析— 日本心理学会 第45回大会 日本女子大学 1981年11月

8. 山崎勝之、宮田洋 驚愕反射の基礎(III) —背景音と反射促進— 関西心理学会 第93回大会 甲南女子大学 1981年11月

<1980年>

7. 山崎勝之、宮田洋 有意刺激の制御における信号の効果(III) —反応促進と不確定度— 日本心理学会 第44回大会 北海道大学 1980年8月

6. 山崎勝之、中山誠、宮田洋 驚愕反射の基礎(I) 関西心理学会 第92回大会 大阪大学 1980年10月

<1979年>

5. 山崎勝之、山田富美雄、宮田洋 有意刺激の制御における信号の効果(II) —信号特性の分析を中心に— 日本心理学会 第43回大会 慶応義塾大学 1979年9月

4. 山崎勝之、山田富美雄、宮田洋 有意刺激の制御における信号の効果(2) —S1特性及びISIでの反応分析を中心に— 関西心理学会 第91回大会 関西学院大学 1979年11月

<1978年>

3. 山崎勝之、宮田洋 有意刺激の制御における信号の効果(I) —単純な事態での現象の探求— 日本心理学会 第42回大会 九州大学 1978年10月

2. 山崎勝之、宮田洋 有意刺激の制御における信号の効果(1) —PFS現象をめぐって—

関西心理学会 第90回大会 奈良女子大 1978年10月

<1977年>

1. 山崎勝之、宮田洋 古典的眼瞼条件づけに於ける有意反応の問題 関西心理学会 第89回大会 京都大学 1977年12月